

(19) 日本国特許庁(JP)

## 再公表特許(A1)

(11) 国際公開番号

W02017/134883

発行日 平成30年2月8日(2018.2.8)

(43) 国際公開日 平成29年8月10日(2017.8.10)

| (51) Int.Cl.                   | F I                | テーマコード (参考) |
|--------------------------------|--------------------|-------------|
| <b>A 6 1 B</b> 1/04 (2006.01)  | A 6 1 B 1/04 5 4 0 | 2 H 0 4 0   |
| <b>A 6 1 B</b> 1/00 (2006.01)  | A 6 1 B 1/00 7 1 6 | 4 C 1 6 1   |
| <b>G 0 2 B</b> 23/24 (2006.01) | G 0 2 B 23/24 A    |             |

審査請求 有 予備審査請求 未請求 (全 29 頁)

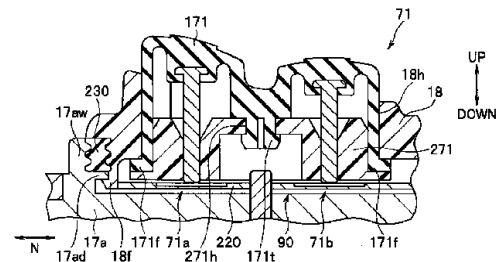
|              |                              |          |                           |
|--------------|------------------------------|----------|---------------------------|
| 出願番号         | 特願2017-530778 (P2017-530778) | (71) 出願人 | 000000376                 |
| (21) 国際出願番号  | PCT/JP2016/082324            |          | オリンパス株式会社                 |
| (22) 国際出願日   | 平成28年10月31日(2016.10.31)      |          | 東京都八王子市石川町2951番地          |
| (31) 優先権主張番号 | 特願2016-18118 (P2016-18118)   | (74) 代理人 | 100076233                 |
| (32) 優先日     | 平成28年2月2日(2016.2.2)          |          | 弁理士 伊藤 進                  |
| (33) 優先権主張国  | 日本国(JP)                      | (74) 代理人 | 100101661                 |
|              |                              |          | 弁理士 長谷川 靖                 |
|              |                              | (74) 代理人 | 100135932                 |
|              |                              |          | 弁理士 篠浦 治                  |
|              |                              | (72) 発明者 | 棚橋 史典                     |
|              |                              |          | 東京都八王子市石川町2951番地 オリ       |
|              |                              |          | ンパス株式会社内                  |
|              |                              | Fターム(参考) | 2H040 BA24 DA21           |
|              |                              |          | 4C161 CC06 FF02 JJ13 LL01 |

最終頁に続く

(54) 【発明の名称】 スイッチユニット、該スイッチユニットを備えた内視鏡用撮像装置、該スイッチユニットを備えた内視鏡

## (57) 【要約】

外装部材の外表面に設けられた開口部90においてそれぞれ離間して設けられた複数のスイッチ71a、71bと、開口部90に設けられた、複数のスイッチ71a、71bを開口部90に固定するスイッチ固定部材271と、複数のスイッチ71a、71b及びスイッチ固定部材271を覆うとともに、開口部90に水密的に固定される柔軟な1つのスイッチカバー171と、スイッチ71a、71b間に形成された、スイッチ固定部材271に対するスイッチカバー171の係止部171tと、を具備する。



**【特許請求の範囲】****【請求項 1】**

外装部材の外表面に設けられた開口部においてそれぞれ離間して設けられた複数のスイッチと、

前記開口部に設けられた、前記複数のスイッチを前記開口部に固定するスイッチ固定部材と、

前記複数のスイッチ及び前記スイッチ固定部材を覆うとともに、前記開口部に水密的に固定される柔軟な 1 つのスイッチカバーと、

各前記スイッチ間に形成された、前記スイッチ固定部材に対する前記スイッチカバーの係止部と、

を具備することを特徴とするスイッチユニット。

10

**【請求項 2】**

前記係止部は、前記スイッチカバーに設けられた、前記スイッチ固定部材に向けて突設されるとともに前記スイッチ固定部材に係止される凸状の爪部であることを特徴とする請求項 1 に記載のスイッチユニット。

**【請求項 3】**

前記係止部は、前記スイッチ固定部材に設けられた、前記スイッチカバーに向けて突設されるとともに前記スイッチカバーに係止される凸状の爪部であることを特徴とする請求項 1 に記載のスイッチユニット。

**【請求項 4】**

20

前記スイッチカバーは、一部が枠体に覆われており、

前記枠体における前記スイッチカバーの被覆部は、前記開口部に対して水密部材を介して水密的に固定されていることを特徴とする請求項 1 ～ 3 のいずれか 1 項に記載のスイッチユニット。

**【請求項 5】**

前記外装部材は、1 層の金属から構成されていることを特徴とする請求項 1 ～ 4 のいずれか 1 項に記載のスイッチユニット。

**【請求項 6】**

請求項 1 ～ 5 のいずれか 1 項に記載のスイッチユニットを備えることを特徴とする内視鏡用撮像装置。

30

**【請求項 7】**

請求項 1 ～ 5 のいずれか 1 項に記載のスイッチユニットを備えることを特徴とする内視鏡。

**【発明の詳細な説明】****【技術分野】****【0001】**

本発明は、外装部材の外表面の開口部に水密的に固定されるスイッチカバーの内部を水密に保持するスイッチユニット、該スイッチユニットを備えた内視鏡用撮像装置、該スイッチユニットを備えた内視鏡に関する。

**【背景技術】**

40

**【0002】**

内部を水密に保持するスイッチユニットを有する装置として、例えば内視鏡用撮像装置が周知である。

**【0003】**

内視鏡用撮像装置は、被検体内における被検部位の像を撮像し、該撮像した被検部位の像をモニタに出力するものであり、例えば内視鏡の挿入部の基端側に設けられた接眼部（以下、アイピースと称す）に接続自在な構成が周知である。

**【0004】**

また、内視鏡用撮像装置は、使用後、確実に洗浄、消毒及び滅菌する必要がある。内視鏡用撮像装置の滅菌方法としては、高温高圧蒸気を用いて滅菌する高温高圧蒸気滅菌処理（

50

以下、オートクレーブ処理と称す)が周知である。

【0005】

ここで、通常、内視鏡用撮像装置における撮像素子、対物光学系等からなる撮像ユニットを具備する内部ユニットは、内視鏡用撮像装置の外装部材内に設けられている。オートクレーブ処理において、外装部材内にも高温高圧蒸気が進入する。

【0006】

この際、撮像ユニットは、高温高圧蒸気に触れると、撮像素子が故障してしまったり、対物光学系が曇ったりしてしまうことから、撮像ユニットは、外装部材内において高温高圧蒸気が進入しない場所に設けられる必要がある。

【0007】

そこで、日本国特開2013-56003号公報には、内視鏡の接眼部に装着される内視鏡用撮像装置において、外装部材内にステンレス等の金属から構成された気密ケースを設け、該気密ケース内に内部ユニットを封止する構成が開示されている。この構成により、外装部材内に進入した高温高圧蒸気から内部ユニットにおける撮像ユニットを気密ケースによって保護することができる。

【0008】

また、日本国特開2013-56003号公報には、内視鏡用撮像装置の外装部材に、スイッチユニットが水密的に設けられた構成が開示されている。尚、スイッチユニットとしては、内部ユニットの撮像ユニットが具備するレンズの一部を前後に移動させて焦点調整を行う焦点調整ボタンや、レンズの一部を前後に移動させて焦点倍率を調整するズームボタンや、明るさ調整ボタンや、色調整ボタンや、リリースボタン等が挙げられる。

【0009】

これらのボタンは、各ボタンを構成するスイッチが、外装部材にスイッチ毎に設けられた開口部に嵌入されて、スイッチ毎に各開口部に設けられたスイッチ固定部材に固定される。さらに、スイッチ毎に被覆されたスイッチカバーが各開口部に水密的にそれぞれ固定されることにより、操作者が押下操作を行うことができるよう外装部材の外表面に一部が露出して設けられる。

【0010】

ここで、日本国特開2013-56003号公報に開示された内視鏡用撮像装置においては、焦点調節ボタンである近点ボタンと遠点ボタンとはそれぞれ独立して設けられている。さらに、ズームボタンであるWideボタンとTeleボタンとがそれぞれ独立して設けられている。

【0011】

よって、内視鏡用撮像装置の外装部材の外表面に設けられるボタン数が多くなってしまう、操作者は、所望のボタンを認識し難いといった問題があった。

【0012】

このような問題に鑑み、近点ボタンと遠点ボタンとが1つの焦点調節ボタンとして一体化されるとともに、WideボタンとTeleボタンとが1つのズームボタンとして一体化される構成も周知である。この構成により、ボタン数を減らすとともに操作者に所望のボタンを認識させやすくすることができる。

【0013】

具体的には、例えば焦点調節ボタンであれば、外装部材の1つの開口部に、近点スイッチと遠点スイッチとが嵌入されて開口部内に設けられた1つのスイッチ固定部材に固定され、近点スイッチ及び遠点スイッチをまとめて覆う1つのスイッチカバーが、1つの開口部に水密的に固定される構成が周知である。尚、以上の構成は、ズームボタンにおいても同様である。

【0014】

ここで、内視鏡用撮像装置に対して、上述したオートクレーブ処理を行うと、スイッチカバー内の圧力が大気圧に対して陰圧または陽圧に変化する。

【0015】

10

20

30

40

50

この際、焦点調節ボタンにおける近点スイッチと遠点スイッチとの間の位置及びズームボタンにおけるWideスイッチとTeleスイッチとの間の位置の各スイッチカバーが、スイッチカバー内の陰陽圧により浮き沈みしてしまう。その結果、各ボタンの操作性が低下してしまうといった問題があった。

【0016】

これは、上述したように、焦点調節ボタンである近点ボタンと遠点ボタンとが一体化されるとともに、ズームボタンであるWideボタンとTeleボタンとが一体化されていると、焦点調節ボタン及びズームボタンの表面積が、各ボタンがそれぞれ独立に設けられている場合の表面積と比べ大きくなってしまいうためである。

【0017】

尚、以上の問題は、1つのボタンにおいて、スイッチカバーが2つ以上のスイッチを覆っている構成においても同様である。

【0018】

また、内視鏡用撮像装置に限らず、他の装置における外装部材の外表面に、複数のボタンが一体化されてスイッチユニットが設けられている構成においても同様である。

【0019】

本発明は、上記問題点に鑑みなされたものであり、水密的に保持されたスイッチカバー内部の陰陽圧により、複数のスイッチを覆うスイッチカバーのスイッチ間の浮き沈みを防止する構成を具備するスイッチユニット、該スイッチユニットを備えた内視鏡用撮像装置、該スイッチユニットを備えた内視鏡を提供することを目的とする。

【発明の開示】

【課題を解決するための手段】

【0020】

本発明の一態様におけるスイッチユニットは、外装部材の外表面に設けられた開口部においてそれぞれ離間して設けられた複数のスイッチと、前記開口部に設けられた、前記複数のスイッチを前記開口部に固定するスイッチ固定部材と、前記複数のスイッチ及び前記スイッチ固定部材を覆うとともに、前記開口部に水密的に固定される柔軟な1つのスイッチカバーと、各前記スイッチ間に形成された、前記スイッチ固定部材に対する前記スイッチカバーの係止部と、を具備する。

【0021】

また、本発明の一態様によるスイッチユニットを備えた内視鏡用撮像装置は、前記スイッチユニットを備える。

【0022】

さらに、本発明の一態様によるスイッチユニットを備えた内視鏡は、前記スイッチユニットを備える。

【図面の簡単な説明】

【0023】

【図1】本発明の一実施の形態のスイッチユニットを有する内視鏡用撮像装置を備えた内視鏡システムの構成の概略を示す図

【図2】図1のカメラヘッドを示す斜視図

【図3】図2中のIII-III線に沿うカメラヘッドの部分断面図

【図4】図3のカメラヘッドにおけるIV線にて囲った部位を拡大して示す部分断面図

【図5】図4の係止部が、スイッチ固定部材に設けられている変形例を示す部分断面図

【図6】図4、図5の係止部が、シーソ型ボタンに適用された変形例を示す部分断面図

【図7】図3のスイッチボタン枠の爪部の形状の変形例を、メインカバーの一部とともに示す部分断面図

【図8】図3のスイッチボタン枠の爪部の図7とは異なる形状の変形例を示す部分断面図

【図9】図3の組み付け前の水密部材の形状の変形例を、スイッチボタン枠及びメインカバーの一部とともに示す部分断面図

【図10】図9の水密部材を組み付けた後の状態を、スイッチボタン枠及びメインカバー

10

20

30

40

50

の一部とともに示す部分断面図

【図 1 1】図 3 中のXI線で囲った従来のハーメチックコネクタの固定構成を概略的に示す部分断面図

【図 1 2】本構成のハーメチックコネクタの固定構成を概略的に示す部分断面図

【図 1 3】前側封止型の図 3 の外装部材の斜視図

【図 1 4】図 1 3 の気密ケースの開口部からのハーメチックコネクタを用いない基板の引き出し構成を示す斜視図

【図 1 5】図 1 4 のメインカバーにフロントカバーが固定された状態における図 1 4 中のXV-XV線に沿う部分断面図

【図 1 6】図 3 のメインカバーに対するハーメチックコネクタの固定方法を概略的に示す部分断面図

10

【図 1 7】図 1 6 のメインカバーの挿通孔を、段部を用いない形状に形成した変形例を、ハーメチックコネクタとともに示す部分断面図

【図 1 8】図 3 のスイッチボタン枠の外周面に周状の水密部材が設けられた構成を、メインカバーの一部とともに概略的に示す部分断面図

【図 1 9】図 1 8 の水密部材が、スイッチボタン枠の底面に設けられた構成を概略的に示す部分断面図

【図 2 0】図 1 9 の水密部材が、スイッチボタン枠の外周面と底面とを結ぶ傾斜面に設けられた構成を概略的に示す部分断面図

【図 2 1】図 2 0 の水密部材を断面L字状に形成した変形例の構成を概略的に示す部分断面図

20

【図 2 2】図 3 のスイッチボタン枠の爪部の形状の変形例を示す斜視図

【図 2 3】図 3 の金リング用の水密部材を示す斜視図

【図 2 4】図 2 3 の金リングを示す斜視図

【発明を実施するための最良の形態】

【0024】

以下、図面を参照して本発明の実施の形態を説明する。尚、図面は模式的なものであり、各部材の厚みと幅との関係、それぞれの部材の厚みの比率などは現実のものとは異なることに留意すべきであり、図面の相互間においても互いの寸法の関係や比率が異なる部分が含まれていることは勿論である。

30

図 1 は、本実施の形態のスイッチユニットを有する内視鏡用撮像装置を備えた内視鏡システムの構成の概略を示す図である。

図 1 に示すように、内視鏡システム 1 は、内視鏡 2 と、該内視鏡 2 に接続自在な内視鏡用撮像装置であるとともに後述するスイッチユニット 270（図 2 参照）を有するカメラヘッド 3 と、内視鏡 2 に照明光を供給する光源装置 4 とを具備している。

【0025】

また、内視鏡システム 1 は、カメラヘッド 3 からの撮像信号に対して信号処理等を行うカメラコントロールユニット（CCU）5 と、該 CCU 5 から出力される映像信号を表示するモニタ 6 とを具備している。

【0026】

40

内視鏡 2 は、細長な挿入部 7 と、該挿入部 7 の基端側に設けられた挿入部 7 よりも太径の把持部 8 と、該把持部 8 の基端に設けられたアイピース 9 とを有して主要部が構成されている。

【0027】

また、内視鏡 2 の把持部 8 の側部に設けられている口金に、一端が光源装置 4 にコネクタ 11 を介して着脱自在なライトガイドケーブル 10 の他端が接続自在となっている。

【0028】

このことにより、光源装置 4 内の図示しないランプから発光された光は、ライトガイドケーブル 10 を介して、内視鏡 2 に供給され、挿入部 7 の先端に設けられた図示しない照明窓から被検体内に照射される。

50

## 【 0 0 2 9 】

照明光によって照明された被検体内の像は、挿入部 7 の先端に設けられた図示しない対物光学系に光学像が結像される。該結像された光学像は、挿入部 7 内に設けられた図示しないリレーレンズ等を介して、アイピース 9 内に設けられたレンズに入射される。このことから、作業者がアイピース 9 を介して光学像を観察することができるようになっている。

## 【 0 0 3 0 】

また、上述したように、内視鏡 2 のアイピース 9 に、カメラヘッド 3 が接続自在である。

## 【 0 0 3 1 】

カメラヘッド 3 からはカメラケーブル 1 2 が延出されており、該カメラケーブル 1 2 の延出端は、該延出端に設けられたコネクタ 1 3 を介して C C U 5 に着脱自在となっている。

10

## 【 0 0 3 2 】

C C U 5 は、カメラヘッド 3 からカメラケーブル 1 2 を介して送信された撮像信号に基づいて画像信号を生成し、被検体内の像を、内視鏡画像としてモニタ 6 に表示させるものである。

## 【 0 0 3 3 】

次に、図 2 ~ 図 4 を用いて上述したカメラヘッド 3 の具体的な構成を説明する。図 2 は、図 1 のカメラヘッドを示す斜視図、図 3 は、図 2 中の III-III 線に沿うカメラヘッドの部分断面図、図 4 は、図 3 のカメラヘッドにおける IV 線にて囲った部位を拡大して示す部分断面図である。

## 【 0 0 3 4 】

図 2、図 3 に示すように、カメラヘッド 3 は、カブラ部 1 5 と、該カブラ部 1 5 に先端が固定された外装部材 1 7 とを有して主要部が構成されている。

20

## 【 0 0 3 5 】

図 3 に示すように、カブラ部 1 5 は、内視鏡 2 のアイピース 9 が接続される部材であり、外装部材 1 7 の先端 1 7 a k 側の外周に対して、固定ネジ 3 2 が用いられて固定されている。

## 【 0 0 3 6 】

外装部材 1 7 は、内部を気密に保持するとともに金属から 1 層に構成されており、メインカバー 1 7 a と、該メインカバー 1 7 a の基端に、半田、溶接等により水密気密に固定されたリヤカバー 1 7 b とから構成されている。即ち、外装部材 1 7 は、気密ケースを兼ね

30

## 【 0 0 3 7 】

尚、外装部材 1 7 を構成する金属としては、軽量化を図るため、例えばチタンが挙げられる。また、外装部材 1 7 を構成する金属としては、軽量かつ熱伝導率の低いものが望ましい。

## 【 0 0 3 8 】

しかしながら、上述したオートクレーブ処理における高温高圧蒸気の内部 1 7 i への進入を防ぐために行う気密溶接ができる金属であれば、ステンレス等のようなものであっても構わない。

## 【 0 0 3 9 】

また、図 2 に示すように、メインカバー 1 7 a の外表面 1 7 a g の一側面、具体的には、図 2 に示す図中上部の外表面 1 7 a g に、被検体内の像の撮像操作に用いられるスイッチユニット 2 7 0 がカメラヘッド 3 の長手方向 N に沿って固定されている。尚、スイッチユニット 2 7 0 の詳しい構成は、後述する。

40

## 【 0 0 4 0 】

また、図 3 に示すように、外装部材 1 7 によって気密に封止された内部 1 7 i に、撮像ユニット 1 0 0 を有する内部ユニット 1 5 0 が設けられている。

## 【 0 0 4 1 】

撮像ユニット 1 0 0 は、複数のレンズ 3 0 と、該レンズ 3 0 を保持するレンズ枠 5 1 と、撮像素子 3 3 と、各種基板等の電気部品を具備して主要部が構成されている。

50

## 【 0 0 4 2 】

より具体的には、図 3 に示すように、複数のレンズ 3 0 は、メインカバー 1 7 a の先端 1 7 a k 内に、外周がメタライズ化されることにより半田等によって気密に固定された観察窓 3 1 に対して長手方向 N に対向して位置している。

## 【 0 0 4 3 】

尚、観察窓 3 1 は、カメラヘッド 3 のカブラ部 1 5 に、内視鏡 2 のアイピース 9 が接続された際、アイピース 9 内のレンズに対して、長手方向 N において対向して位置する。

## 【 0 0 4 4 】

また、外装部材 1 7 の内部 1 7 i において、観察窓 3 1 の後方に、レンズ枠 5 1 によって保持された複数のレンズ 3 0 が設けられており、該複数のレンズ 3 0 の結像位置に、撮像素子 3 3 が位置している。

10

## 【 0 0 4 5 】

尚、レンズ枠 5 1 及び撮像素子 3 3 は、長手方向 N においてレンズ枠 5 1 と撮像素子 3 3 との間に設けられた固定枠 1 2 0 に保持されている。

## 【 0 0 4 6 】

固定枠 1 2 0 は、内部ユニット 1 5 0 を保持するものであり、撮像素子 3 3 の熱を逃がすため金属から構成されている。

## 【 0 0 4 7 】

また、固定枠 1 2 0 は、図 3 に示すように、内部ユニット 1 5 0 をメインカバー 1 7 a の内面 1 7 n に固定する図示しない 1 つまたは複数の固定部位 1 2 0 y を有している（図 3 においては、固定部位 1 2 0 y は 1 つのみ図示）。

20

## 【 0 0 4 8 】

尚、固定部位 1 2 0 y に、長手方向 N に貫通する図示しない貫通孔が形成されており、貫通孔に挿通されたネジ 6 0 が、該ネジ 6 0 の外周に被覆された図示しないワッシャを介して内面 1 7 n に形成されたネジ穴 1 6 に螺合される。このことにより、固定部位 1 2 0 y は内面 1 7 n に、金属を介して固定される。即ち、固定枠 1 2 0 は、内面 1 7 n に固定される。

## 【 0 0 4 9 】

さらに、図 3 に示すように、外装部材 1 7 の内部 1 7 i において、撮像素子 3 3 の後方に、L 字状に折り曲げられた基板フォルダ 2 0 0 に保持されるとともに撮像素子 3 3 に電氣的に接続された各種基板が設けられている。

30

## 【 0 0 5 0 】

各種基板は、基板フォルダ 2 0 0 の後方に位置する基板 3 5 に、U 字状に折り曲げられたフレキシブル基板 1 3 8 を介して電氣的に接続されている。

## 【 0 0 5 1 】

基板フォルダ 2 0 0 及び基板 3 5 は、固定枠 1 2 0 の外周に固定されたフレーム 2 8 に固定されている。

## 【 0 0 5 2 】

基板 3 5 に、フレキシブル基板 1 3 8 とは上下逆さの U 字状に折り曲げられて基板 3 5 から延出されたフレキシブル基板 3 8 のコネクタ 3 8 a が電氣的に接続されている。

40

## 【 0 0 5 3 】

また、フレキシブル基板 3 8 の延出端に設けられたコネクタ 3 8 b は、基板 3 5 よりも後方において傾いて設けられた基板 3 2 0 に電氣的に接続されている。

## 【 0 0 5 4 】

基板 3 2 0 の基端側には、リヤカバー 1 7 b の端部の内面 1 7 n に対して溶接等によって固定されたハーメチックコネクタ 1 6 0 が設けられており、該ハーメチックコネクタ 1 6 0 の基端側には、基板 4 5 が設けられている。

## 【 0 0 5 5 】

ハーメチックコネクタ 1 6 0 には、該ハーメチックコネクタ 1 6 0 を貫通する導通ピン 4 2 が複数設けられており、導通ピン 4 2 により基板 3 2 0 と基板 4 5 とは電氣的に接続さ

50

れている。

【 0 0 5 6 】

また、図 3 に示すように、リヤカバー 1 7 b の基端側に、金属から構成されたケーブル固定枠 4 1 の先端が、ハーメチックコネクタ 1 6 0 を介して接続されている。

【 0 0 5 7 】

さらに、ケーブル固定枠 4 1 の基端に、スペーサリング 1 7 9 が固定されており、スペーサリング 1 7 9 の内周面には、カメラケーブル 1 2 の先端が接続されている。

【 0 0 5 8 】

カメラケーブル 1 2 の内部には、金属の導体の外周に、例えば樹脂材料から構成された複数の電気コードが収納されており、該電気コードの先端は、ケーブル固定枠 4 1 内まで延出され、基板 4 5 に電氣的に接続されている。

10

【 0 0 5 9 】

また、カメラケーブル 1 2 の外周面には、カメラケーブル 1 2 の急激な屈曲を防止する折れ止め 4 4 が被覆されている。また、折れ止め 4 4 の外周には、リヤネジ 5 0 が移動自在に被覆されており、リヤネジ 5 0 により、カメラケーブル 1 2 の先端側が、ケーブル固定枠 4 1 に水密気密に固定される。

【 0 0 6 0 】

さらに、リヤカバー 1 7 b の先端から、リヤネジ 5 0 の先端まで、リヤカバー 1 7 b の外周及びケーブル固定枠 4 1 の基端側の外周を覆うように、レーデル（登録商標）や P E E K 等の樹脂材料から構成された外装カバー 4 0 が設けられている。

20

【 0 0 6 1 】

次に、スイッチユニット 2 7 0 の構成を、図 2 ～図 4 を用いて説明する。

【 0 0 6 2 】

図 2 ～図 4 に示すように、メインカバー 1 7 a の図中上部の外表面 1 7 a g に、所定の大きさを有するとともに、図中 U P - D O W N 方向に所定の深さを有し、周囲をメインカバー 1 7 a の上部側の外表面 1 7 a g から U P 方向に起立する壁部 1 7 a w に覆われた開口部 9 0 が形成されている。

【 0 0 6 3 】

尚、開口部 9 0 は、外装部材 1 7 の内部 1 7 i には連通しておらず、メインカバー 1 7 a の上部外表面 1 7 a g が、開口部 9 0 の底部を構成している。

30

【 0 0 6 4 】

開口部 9 0 に、スイッチユニット 2 7 0 が嵌入されて水密的に固定されている。

【 0 0 6 5 】

図 3 に示すように、スイッチユニット 2 7 0 は、複数のスイッチボタン 7 1 ～ 7 5 と、該複数のスイッチボタン 7 1 ～ 7 5 を開口部 9 0 に水密部材 2 3 0 を介して水密的に取り付ける枠体であるスイッチボタン枠 1 8 と、基板 2 2 0 とを具備して主要部が構成されている。

【 0 0 6 6 】

スイッチボタン 7 1 は、レンズ 3 0 の一部を前後に移動させて焦点調整を行うとともに近点ボタンと遠点ボタンとが 1 つに一体化された焦点調節ボタンである。

40

【 0 0 6 7 】

スイッチボタン 7 1 は、遠点スイッチ 7 1 a と、該遠点スイッチ 7 1 a から長手方向 N に離間して設けられた近点スイッチ 7 1 b と、遠点スイッチ 7 1 a 及び近点スイッチ 7 1 b を開口部 9 0 に固定するとともに水密確保用のスイッチ固定部材 2 7 1 とを具備している。

【 0 0 6 8 】

また、スイッチボタン 7 1 は、遠点スイッチ 7 1 a 、近点スイッチ 7 1 b 及びスイッチ固定部材 2 7 1 を覆う柔軟な 1 つのスイッチカバー 1 7 1 を具備している。

【 0 0 6 9 】

スイッチボタン 7 2 は、レンズ 3 0 の一部を前後に移動させて焦点倍率を調整するととも

50

にWideボタンとTeleボタンとが１つに一体化されたズームボタンである。

【００７０】

スイッチボタン７２は、図示しないWideスイッチと、該Wideスイッチから長手方向Ｎに略直交する方向に離間して設けられた図示しないTeleスイッチと、Wideスイッチ及びTeleスイッチを開口部９０に固定するとともに水密確保用のスイッチ固定部材２７２とを具備している。

【００７１】

また、スイッチボタン７２は、Wideスイッチ、Teleスイッチ及びスイッチ固定部材２７２を覆う柔軟な１つのスイッチカバー１７２を具備している。

【００７２】

スイッチボタン７３は、明るさ調整ボタンであり、図示しないスイッチと、該スイッチを開口部９０に固定するとともに水密確保用の図示しないスイッチ固定部材と、スイッチ及びスイッチ固定部材を覆う柔軟な１つの図示しないスイッチカバー１７３（図示されず）とを具備して主要部が構成されている。

【００７３】

スイッチボタン７４は、色調整ボタンであり、図示しないスイッチと、該スイッチを開口部９０に固定するとともに水密確保用の図示しないスイッチ固定部材と、スイッチ及びスイッチ固定部材を覆う柔軟な１つの図示しないスイッチカバー１７４（図示されず）とを具備して主要部が構成されている。

【００７４】

尚、スイッチカバー１７４は、スイッチボタン７４用のスイッチ固定部材の外周に締め付けられて嵌合されている。

【００７５】

スイッチボタン７５は、リリースボタンであり、スイッチ７５ａと、該スイッチ７５ａを開口部９０に固定するとともに水密確保用のスイッチ固定部材２７５と、スイッチ７５ａ及びスイッチ固定部材２７５を覆う柔軟な１つのスイッチカバー１７５とを具備して主要部が構成されている。

【００７６】

尚、スイッチカバー１７５は、スイッチ固定部材２７５の外周に締め付けられて嵌合されている。

【００７７】

スイッチボタン枠１８は、例えば樹脂から構成されており、スイッチボタン７１～７５の各種スイッチカバー１７１～１７５のＵＰ方向側が露出されるようＤＯＷＮ方向側の一部を覆うとともに、各種スイッチカバー１７１～１７５が水密的に固定されている。

【００７８】

一例を挙げると、図４に示すように、スイッチカバー１７１のＤＯＷＮ方向側の底部の外周に設けられた外向フランジ１７１ｆが、スイッチボタン枠１８に係止されたスイッチボタン７１の嵌入孔１８ｈのＤＯＷＮ側の底部の開口端に係止される。

【００７９】

このことにより、スイッチカバー１７１は、スイッチボタン枠１８に水密的に固定されている。尚、以上のスイッチカバー１７１の水密構成は、各種スイッチカバー１７２～１７５においても同様である。

【００８０】

スイッチボタン枠１８は、図４に示すように、各種スイッチカバー１７１～１７５の被覆部の外周面が、壁部１７ａｗの内周面に、周状の水密部材２３０を介して水密的に当接されている。

【００８１】

また、スイッチボタン枠１８は、開口部９０に水密的に固定されている。具体的には、スイッチボタン枠１８は、被覆部に設けられたＤＯＷＮ方向側における底部の外周において外周方向に設定間隔を有して複数設けられた弾性変形可能な爪部１８ｆ（図４では、爪部

10

20

30

40

50

18fは、1つのみ図示)が、壁部17awから開口部90の内側に突出して設けられた係止突起17adにスナップフィットにて係止されている。

【0082】

さらに、スイッチボタン枠18は、メインカバー17aの上部側の外表面17agに対して、1つのネジ19によって固定されている。このことにより、スイッチボタン枠18は、開口部90に水密的に固定されている。

【0083】

基板220は、後述するハーメチックコネクタ310(図11参照)を介して、外装部材17の内部17iに設けられるとともに基板フォルダ200に保持された基板に電氣的に接続されている。

10

【0084】

ここで、遠点スイッチ71aと近点スイッチ71bとの間に、スイッチ固定部材271に対するスイッチカバー171の係止部が設けられている。

【0085】

これは、係止部により、オートクレープ処理等によるスイッチカバー171内の陰陽圧により、例えばスイッチボタン71における遠点スイッチ71aと近点スイッチ71bとの間の位置におけるスイッチカバー171の浮き沈みを防止するためである。

【0086】

具体的には、図4に示すように、係止部は、スイッチカバー171において、遠点スイッチ71aと近点スイッチ71bとの間の位置からスイッチ固定部材271に向けてDOWN方向に突設される凸状の爪部171tから構成されている。

20

【0087】

爪部171tは、スイッチ固定部材271において爪部171tに対向する位置にUP-DOWN方向に貫通するよう形成された貫通孔271hをUP-DOWN方向に貫通してスイッチ固定部材271に係止される。

【0088】

この爪部171tのスイッチ固定部材271に対する係止によって、スイッチカバー171内の陰陽圧により、例えばスイッチボタン71における遠点スイッチ71aと近点スイッチ71bとの間の位置におけるスイッチカバー171の浮き沈みが防止される。

【0089】

また、スイッチボタン72におけるWideスイッチとTeleスイッチとの間の位置におけるスイッチカバー172の浮き沈みも、スイッチ固定部材272に設けられた係止部である凸状の爪部172tにより防止されている。

30

【0090】

尚、爪部172tの形状及び係止構成は、爪部171tの形状及び係止構成と同様である。

【0091】

尚、その他のカメラヘッド3の構成は周知であるため、その説明は省略する。

【0092】

このように、本実施の形態においては、スイッチボタン71は、レンズ30の一部を前後に移動させて焦点調整を行うとともに近点ボタンと遠点ボタンとが1つに一体化された焦点調節ボタンであると示した。

40

【0093】

また、スイッチボタン72は、レンズ30の一部を前後に移動させて焦点倍率を調整するとともにWideボタンとTeleボタンとが1つに一体化されたズームボタンであると示した。

【0094】

さらに、スイッチボタン71における遠点スイッチ71aと近点スイッチ71bとの間に、スイッチ固定部材271に対するスイッチカバー171の係止部が設けられていると示した。

【0095】

50

具体的には、係止部は、スイッチカバー 171 において、遠点スイッチ 71a と近点スイッチ 71b との間の位置からスイッチ固定部材 271 に向けて D O W N 方向に突設される凸状の爪部 171t から構成されていると示した。

【0096】

また、爪部 171t は、スイッチ固定部材 271 に形成された貫通孔 271h を介してスイッチ固定部材 271 に係止されると示した。

【0097】

このことによれば、スイッチカバー 171 に設けられた爪部 171t のスイッチ固定部材 271 に対する係止により、近点ボタンと遠点ボタンとが一体化されスイッチボタン 71 の表面積が大きくなっていたとしても、カメラヘッド 3 のオートクレーブ処理の際におけるスイッチカバー 171 内の陰陽圧による、スイッチボタン 71 における遠点スイッチ 71a と近点スイッチ 71b との間の位置におけるスイッチカバー 171 の浮き沈みを防止することができる。

10

【0098】

同様に、スイッチボタン 72 における Wide スイッチと Tele スイッチとの間に、スイッチ固定部材 272 に対するスイッチカバー 172 の係止部である凸状の爪部 172t が設けられていると示した。

【0099】

このことによれば、スイッチボタン 71 と同様に、スイッチカバー 172 に設けられた爪部 172t のスイッチ固定部材 272 に対する係止により、Wide ボタンと Tele ボタンとが一体化されスイッチボタン 72 の表面積が大きくなっていたとしても、カメラヘッド 3 のオートクレーブ処理の際におけるスイッチカバー 172 内の陰陽圧による、スイッチボタン 72 における Wide スイッチと Tele スイッチとの間の位置におけるスイッチカバー 172 の浮き沈みを防止することができる。

20

【0100】

以上から、水密的に保持されたスイッチカバーの内部の陰陽圧により、複数のスイッチを覆うスイッチカバーのスイッチ間の浮き沈みを防止する構成を具備するスイッチユニット 270、該スイッチユニット 270 を備えたカメラヘッド 3、該スイッチユニット 270 を備えた内視鏡 2 を提供することができる。

【0101】

尚、以下、変形例を、図 5 を用いて示す。図 5 は、図 4 の係止部が、スイッチ固定部材に設けられている変形例を示す部分断面図である。

30

【0102】

上述した本実施の形態においては、スイッチボタン 71 における遠点スイッチ 71a と近点スイッチ 71b との間に、スイッチ固定部材 271 に対するスイッチカバー 171 の係止部が設けられていると示した。

【0103】

また、係止部は、スイッチカバー 171 において、遠点スイッチ 71a と近点スイッチ 71b との間の位置からスイッチ固定部材 271 に向けて D O W N 方向に突設される凸状の爪部 171t から構成されていると示した。

40

【0104】

これに限らず、図 5 に示すように、スイッチボタン 71 における係止部は、スイッチ固定部材 271 において、スイッチカバー 171 に向けて U P 方向側に突設されるとともに、スイッチカバー 171 に形成された凹溝 171m に係止される凸状の爪部 271t から構成されていても構わない。

【0105】

尚、図示しないが、同様に、スイッチボタン 72 における係止部も、スイッチ固定部材 272 において、スイッチカバー 172 に向けて U P 方向側に突設されるとともに、スイッチカバー 172 に形成された凹溝に係止される凸状の爪部から構成されていても構わない。

50

## 【 0 1 0 6 】

このような構成によっても、上述した本実施の形態と同様の効果を得ることができる。

## 【 0 1 0 7 】

また、以下、別の変形例を、図 6 を用いて示す。図 6 は、図 4、図 5 の係止部が、シーソ型ボタンに適用された変形例を示す部分断面図である。

## 【 0 1 0 8 】

図 4、図 5 に示したスイッチ固定部材 2 7 1 に対するスイッチカバー 1 7 1 の係止部は、スイッチボタン 7 1 がシーソ型ボタン構造を有している場合においても適用可能である。

## 【 0 1 0 9 】

具体的には、図 6 に示すように、基板 2 2 0 に接触する支点 3 7 1 s を基に、方向 B または方向 C にスイッチカバー 1 7 1 を介して傾倒操作されるスイッチ端子 3 7 1 において、スイッチカバー 1 7 1 に接触する部位における図 6 中 A 線で囲った部位に、図 4、図 5 に示した係止部を適用しても、上述した本実施の形態と同様の効果を得ることができる。

## 【 0 1 1 0 】

尚、図 6 のシーソ型ボタンの構成は、スイッチボタン 7 2 に対しても適用可能であることは云うまでもない。

## 【 0 1 1 1 】

さらに、上述した本実施の形態においては、スイッチボタン 7 1、7 2 は、それぞれ 2 つのスイッチを有している場合を例に挙げて示したが、これに限らず、3 つ以上のスイッチを有している場合においても適用可能であることは勿論である。

## 【 0 1 1 2 】

図 7 は、図 3 のスイッチボタン枠の爪部の形状の変形例を、メインカバーの一部とともに示す部分断面図、図 8 は、図 3 のスイッチボタン枠の爪部の図 7 とは異なる形状の変形例を示す部分断面図である。

## 【 0 1 1 3 】

通常、スイッチユニット 2 7 0 の開口部 9 0 に対する組立性を考慮すると、事前にスイッチボタン 7 1 ~ 7 5 が嵌入孔 1 8 h に組み込まれたスイッチボタン枠 1 8 を、開口部 9 0 にネジ 1 9 にて固定する手法が好ましい。

## 【 0 1 1 4 】

しかしながら、スイッチボタン枠 1 8 の開口部 9 0 に対する水密性を向上させるには、ネジ 1 9 の本数を増やさなければならず、外観を損なうといった問題があった。

## 【 0 1 1 5 】

さらに、スイッチボタン枠 1 8 の外周形状が複雑になると、ネジ 1 9 を用いたスイッチボタン枠 1 8 の固定では、周状に設けられた水密部材 2 3 0 に対しスイッチボタン枠 1 8 から均等に圧力が加わらない。

## 【 0 1 1 6 】

よって、開口部 9 0 に対するスイッチボタン枠 1 8 の水密性を確保することが難しくなってしまうといった問題もあった。

## 【 0 1 1 7 】

そこで、上述した本実施の形態においては、開口部 9 0 に対するスイッチボタン枠 1 8 の固定には、ネジ 1 9 は 1 本しか用いていない。

## 【 0 1 1 8 】

さらに、上述したように複数の爪部 1 8 f を、壁部 1 7 a w から開口部 9 0 の内側に突出して設けられた係止突起 1 7 a d にスナップフィットにて係止させる構成を用いている。

## 【 0 1 1 9 】

このような複数の爪部 1 8 f を用いる構成においては、ネジ 1 9 を 1 本しか用いなくても係止突起 1 7 a d に対する複数の爪部 1 8 f の係止により周状の水密部材 2 3 0 に対してスイッチボタン枠 1 8 から均等に圧力を加えることができる。

## 【 0 1 2 0 】

さらに、ネジ 1 9 は 1 本しか用いないばかりか複数の爪部 1 8 f は外表面に露出されない

10

20

30

40

50

ことから、カメラヘッド 3 のデザイン性を向上させることができる。

【 0 1 2 1 】

このような複数の爪部 1 8 f を用いる構成において、図 7 に示すように、各爪部 1 8 f の係止部 1 8 p の係止突起 1 7 a d に対する接触面 1 8 p s 及び係止突起 1 7 a d における係止部 1 8 p の接触面 1 7 a d s に、それぞれ角度  $\theta$  の傾斜面が形成されていても良い。

【 0 1 2 2 】

このことによれば、係止部 1 8 p を係止突起 1 7 a d に係止させるため、接触面 1 7 a d s に対して接触面 1 8 p s を接触させて D O W N 方向に通過する際、接触面 1 7 a d s に対する接触面 1 8 p s の滑り性が向上されることから、通過性を向上させることができる。

10

【 0 1 2 3 】

また、図 8 に示すように、各爪部 1 8 f の U P 方向の上部の付け根に、円弧状の凹み 1 8 f n が形成されておれば、係止部 1 8 p を係止突起 1 7 a d に係止させる際、爪部 1 8 f が撓みやすくなる。即ち、弾性変形しやすくなる。

【 0 1 2 4 】

尚、凹み 1 8 f n の円弧の半径 R は、大きい程、爪部 1 8 f が撓む際の応力を緩和することができる。

【 0 1 2 5 】

さらに、係止部 1 8 p の係止突起 1 7 a d に係止される部位 1 8 p k の円弧は、爪部 1 8 f の径を考慮すると大きな半径に形成することが出来ないことから、図 8 に示すように、係止部 1 8 p にリブ 1 8 p r が形成されていても構わない。

20

【 0 1 2 6 】

図 9 は、図 3 の組み付け前の水密部材の形状の変形例を、スイッチボタン枠及びメインカバーの一部とともに示す部分断面図、図 1 0 は、図 9 の水密部材を組み付けた後の状態を、スイッチボタン枠及びメインカバーの一部とともに示す部分断面図である。

【 0 1 2 7 】

上述した図 3 に示すように、開口部 9 0 に対してスイッチボタン枠 1 8 は、水密部材 2 3 0 を介して水密的に組み付けられている。

【 0 1 2 8 】

尚、水密部材 2 3 0 としては、水密性を向上させるため、図 9、図 1 0 に示すように、外周に複数の突起 2 3 0 d が形成されることにより潰しシロが大きく設定された断面略矩形状の構成が周知である。

30

【 0 1 2 9 】

このような外周に複数の突起 2 3 0 d を有する水密部材 2 3 0 において、本構成においては、図 9 に示すように、突起 2 3 0 d に傾斜面 2 3 0 d k が形成されている。

【 0 1 3 0 】

この傾斜面 2 3 0 d k により、水密部材 2 3 0 を D O W N 方向に潰して開口部 9 0 にスイッチボタン枠 1 8 を組み付ける際の水密部材 2 3 0 の通過抵抗が減少するため、水密部材 2 3 0 の挿入性を向上させることができる。

【 0 1 3 1 】

また、各突起 2 3 0 d が潰れやすくなることから、従来よりも小さな力で開口部 9 0 にスイッチボタン枠 1 8 を組み付けることができる。

40

【 0 1 3 2 】

さらに、本構成においては、水密部材 2 3 0 の突起 2 3 0 d において、開口部 9 0 にスイッチボタン枠 1 8 を組み付けた際に発生するとともに外観に露出される隙間 S に対向する位置に、リブ 2 3 0 r が形成されている。

【 0 1 3 3 】

このことによれば、図 1 0 に示すように、開口部 9 0 にスイッチボタン枠 1 8 が組み付けられた後、リブ 2 3 0 r は潰されて隙間 S が埋まることから、隙間 S 付近の洗浄消毒性を向上させることができる。

50

## 【 0 1 3 4 】

図 1 1 は、図 3 中のXI線で囲った従来のハーメチックコネクタの固定構成を概略的に示す部分断面図、図 1 2 は、本構成のハーメチックコネクタの固定構成を概略的に示す部分断面図である。

## 【 0 1 3 5 】

上述した本実施の形態に示したように、スイッチユニット 2 7 0 の基板 2 2 0 は、ハーメチックコネクタ 3 1 0 を介して、外装部材 1 7 の内部 1 7 i の基板フォルダ 2 0 0 に固定された基板に電氣的に接続されていると示した。

## 【 0 1 3 6 】

尚、ハーメチックコネクタ 3 1 0 の固定方法及び構成としては、図 1 1 に示すように、メインカバー 1 7 a の上部側において開口部 9 0 に連通する部位に開口部 9 0 と内部 1 7 i とが連通するよう形成された挿通孔 1 7 a h の段部 1 7 a p に、リング状の半田 3 0 9 を介してハーメチックコネクタ 3 1 0 の段部 3 1 0 p を付き当てる。

10

## 【 0 1 3 7 】

その後、半田 3 0 9 を溶かして、段部 3 1 0 p が段部 1 7 a p に突き当たる位置までハーメチックコネクタ 3 1 0 を D O W N 方向に落とし込んで気密封止する手法、構成が周知である。

## 【 0 1 3 8 】

しかしながら、このような手法及び構成においては、段部 3 1 0 p が段部 1 7 a p に完全に突き当たるまでハーメチックコネクタ 3 1 0 が落とし込まれず途中で止まってしまう場合があった。

20

## 【 0 1 3 9 】

さらに、ハーメチックコネクタ 3 1 0 が傾いた状態で気密封止されてしまう場合があった。よって、ハーメチックコネクタ 3 1 0 の封止品質（強度、気密性）が劣化してしまう場合があった。

## 【 0 1 4 0 】

このような事情に鑑み、本構成においては、図 1 2 に示すように、段部 3 1 0 p を段部 1 7 a p に付き当てた後、段部 3 1 0 p の外周を挿通孔 1 7 a h に対してリング状の半田 3 0 9 を用いて固定する手法及び構成を用いた。

## 【 0 1 4 1 】

このような構成によれば、半田 3 0 9 が溶解しても、段部 1 7 a p に対する段部 3 1 0 p の付き当て状態は変化しない。

30

## 【 0 1 4 2 】

このことから、ハーメチックコネクタ 3 1 0 が傾いたり、ハーメチックコネクタ 3 1 0 の U P - D O W N 方向における位置が変化したりしてしまうことがない。

## 【 0 1 4 3 】

図 1 3 は、前側封止型の図 3 の外装部材の斜視図、図 1 4 は、図 1 3 の気密ケースの開口部からのハーメチックコネクタを用いない基板の引き出し構成を示す斜視図、図 1 5 は、図 1 4 のメインカバーにフロントカバーが固定された状態における図 1 4 中のXV-XV線に沿う部分断面図である。

40

## 【 0 1 4 4 】

上述した本実施の形態においては、外装部材 1 7 は、メインカバー 1 7 a の基端側をリヤカバー 1 7 b にて封止することにより、内部 1 7 i を水密気密に封止すると示した。

## 【 0 1 4 5 】

これに限らず、図 1 5 に示すように、図 1 3 に示すメインカバー 1 7 a の先端側をフロントカバー 1 7 c にて封止することにより、内部 1 7 i を水密気密に封止する構成も考えられる。

## 【 0 1 4 6 】

このような構成において、ハーメチックコネクタ 3 1 0 を用いずに、開口部 9 0 から基板 2 2 0 を後方側に引き出し、フレキシブルな延長基板 2 2 1 を用いてハーメチックコネ

50

クタ１６０の導通ピン４２に電氣的に接続する構成が考えられる。

【０１４７】

しかしながら、この構成では、開口部９０からハーメチックコネクタ１６０に亘って基板２２０及び延長基板２２１が外観に露出される面積が大きくなるばかりか、外観形状が複雑になる。

【０１４８】

このため、スイッチユニット２７０の水密性の確保が難しくなってしまうといった問題があった。

【０１４９】

そこで、上述した本実施の形態や、図１３に示すように、開口部９０を壁部１７ａｗにて覆うことにより、水密性の確保を開口部９０のみとすることにより、外観形状を簡易化し、スイッチユニット２７０の水密性を容易に確保する構成が考えられる。

【０１５０】

このような構成において、ハーメチックコネクタ３１０を用いずに、基板２２０を導通ピン４２に接続する構成として、図１３～図１５に示す構成が考えられる。

【０１５１】

具体的には、メインカバー１７ａに、一端が開口部９０に開口９０ｈａとして開口され、他端がメインカバー１７ａの基端を封止するリヤカバー１７ｂに開口９０ｈｂとして開口される傾斜孔９０ｈが形成され、傾斜孔９０ｈを介して延長基板２２１を開口部９０から引き出す構成が考えられる。

【０１５２】

このような構成によれば、基板２２０の延長基板２２１を、傾斜孔９０ｈを介して開口部９０外におけるリヤカバー１７ｂの後方に引き出し、導通ピン４２に電氣的に接続することができる。

【０１５３】

このことから、ハーメチックコネクタ３１０を用いる場合と同様の、スイッチユニット２７０の水密性を確保することができる。

【０１５４】

図１６は、図３のメインカバーに対するハーメチックコネクタの固定方法を概略的に示す部分断面図、図１７は、図１６のメインカバーの挿通孔を、段部を用いない形状に形成した変形例を、ハーメチックコネクタとともに示す部分断面図である。

【０１５５】

上述した図１１、図１２に示すように、メインカバー１７ａの挿通孔１７ａｈに対して、ハーメチックコネクタ３１０は、半田３０９を介して固定される。

【０１５６】

また、図３に示すように、ハーメチックコネクタ３１０は、メインカバー１７ａのＵＰ方向側に固定されている。

【０１５７】

しかしながら、ハーメチックコネクタ３１０をＵＰ方向側に向けた状態において、ＵＰ方向から半田３０９を用いたハーメチックコネクタ３１０の固定を行うと、ハーメチックコネクタ３１０の自重により、半田３０９とともに用いる既知のフラックスが内部１７ｉに進入しやすくなってしまふ。

【０１５８】

その結果、内部１７ｉが腐食してしまう可能性があることから、半田固定後、内部１７ｉのフラックスを拭き取る必要があるが、内部１７ｉに漏れたフラックスは拭き取り難いといった問題があった。

【０１５９】

そこで、図１６に示すように、挿通孔１７ａｈに対してハーメチックコネクタ３１０を、半田３０９を用いて固定する際、外装部材１７をＵＰ－ＤＯＷＮ方向において上下逆さまにし、内部１７ｉ側から固定治具３４１を用いてハーメチックコネクタ３１０を、半田

10

20

30

40

50

309を溶解するホットプレート340に付勢して固定しても良い。

【0160】

尚、この際、挿通孔17ahの周状の開口端17apmに傾斜面が形成されておれば、半田溜まりが目視可能となることから、半田接合性が良好か否かを作業者は容易に視認することができる。

【0161】

また、ホットプレート340と半田309の距離が近接するため、ホットプレート340からの半田309への伝熱性が向上する。

【0162】

さらに、フラックスは、内部17iでは無く、開口部90側に漏れるため、内部17iへのフラックスの進入量を低減させることができる他、フラックスの拭き取り性が向上する。

10

【0163】

尚、図17に示すように、挿通孔17ahを段部17ap無しの形状とし、ハーメチックコネクタ310の段部310pが内部17iにおける挿通孔17ahの開口端付近に当接される構成を用いても良い。

【0164】

図18は、図3のスイッチボタン枠の外周面に周状の水密部材が設けられた構成を、メインカバーの一部とともに概略的に示す部分断面図、図19は、図18の水密部材が、スイッチボタン枠の底面に設けられた構成を概略的に示す部分断面図、図20は、図19の水密部材が、スイッチボタン枠の外周面と底面とを結ぶ傾斜面に設けられた構成を概略的に示す部分断面図、図21は、図20の水密部材を断面L字状に形成した変形例の構成を概略的に示す部分断面図である。

20

【0165】

図18に示すように、スイッチボタン枠18を開口部90に組み付けて固定する際、水密部材230がスイッチボタン枠18の外周面に形成されていると、水密部材230が潰れ難く圧入し難いといった問題があった。

【0166】

また、図19に示すように、水密部材230がスイッチボタン枠18の底面に形成されていると、水密部材230の圧縮反力により、スイッチボタン枠18が反りやすいといった問題があった。

30

【0167】

そこで、図20に示すように、水密部材230が、スイッチボタン枠18の外周面と底面とを結ぶ傾斜面18qに形成されていても構わない。

【0168】

このような構成によれば、水密部材230も断面テーパ状を有することから、圧入の際の抵抗が少なくなるばかりか、スイッチボタン枠18をDOWN方向に押し込む際に、傾斜面18qを用いた楔効果により水密部材230が潰れやすくなる。

【0169】

よって、取り付け性が良く、傾斜面18qにて水密性を確保することができるため、水密性の高い水密部材230を提供することができる。

40

【0170】

尚、図21に示すように、水密部材230は、傾斜面18qから底面側まで延長された断面L字状に形成されていても構わない。

【0171】

このような構成によれば、開口部90にスイッチボタン枠18を組み付けた際の、壁部17awとスイッチボタン枠18の面合わせ精度の許容量Eを大きく確保することができる。

【0172】

図22は、図3のスイッチボタン枠の爪部の形状の変形例を示す斜視図である。

50

## 【 0 1 7 3 】

上述した本実施の形態においては、スイッチボタン枠 1 8 は、複数設けられた弾性変形可能な爪部 1 8 f が、係止突起 1 7 a d にスナップフィットにて係止されると示した。

## 【 0 1 7 4 】

さらに、メインカバー 1 7 a の上部側の外表面 1 7 a g に対して、1つのネジ 1 9 によって固定されることにより、スイッチボタン枠 1 9 は、開口部 9 0 に水密的に固定されていると示した。

## 【 0 1 7 5 】

この複数の爪部 1 8 f の内、ネジ 1 9 から最も離れた位置、例えばスイッチボタン枠 1 8 の先端位置の爪部 1 8 f が、スイッチボタン枠 1 8 の外周方向に大きく形成され、弾性変形することの無い、剛体の爪部 1 8 v に形成されていても構わない。尚、爪部 1 8 v は、係止突起 1 7 a d に対して引っ掛かっているのみである。

10

## 【 0 1 7 6 】

このような構成によれば、爪部を全て弾性変形可能なものから構成する場合よりも、ネジ 1 9 から最も離れた位置の爪部を剛体の爪部 1 8 v とすることにより、ネジ 1 9 を 1 本のみ用いる構成においても、よりスイッチボタン枠 1 8 の固定強度が向上する。即ち、スイッチボタン枠 1 8 の外力による耐性が向上する。

## 【 0 1 7 7 】

また、剛体の爪部 1 8 v を、弾性変形可能な複数の爪部 1 8 f と併用することによって、スイッチボタン枠 1 8 の取り付け後、簡単にスイッチボタン枠 1 8 が外れない構造を提供することができる。

20

## 【 0 1 7 8 】

図 2 3 は、図 3 の金リング用の水密部材を示す斜視図、図 2 4 は、図 2 3 の金リングを示す斜視図である。

## 【 0 1 7 9 】

図 3 に示すように、外装カバー 4 0 の先端側の内周は、リヤカバー 1 7 b の先端側の外周に対して周状の水密部材 2 5 2 を介して水密的に固定されている。

## 【 0 1 8 0 】

また、外装カバー 4 0 の先端側の外周において、外装カバー 4 0 の先端と、メインカバー 1 7 a の基端との間の位置に、カメラヘッドの機能等を操作者に視覚的に認識させる指標である既知の金リング 2 5 0 が設けられている。

30

## 【 0 1 8 1 】

尚、図 3 に示すように、金リング 2 5 0 とメインカバー 1 7 a の基端との間の隙間の洗浄消毒性を向上させるため、該隙間にさらに周状の水密部材 2 5 1 が設けられた構成も周知である。

## 【 0 1 8 2 】

しかしながら、カメラヘッド 3 の外周形状が、デザイン性を考慮して流線形を有する複雑な形状を有している場合、水密部材 2 5 1 が回転方向にずれてしまうと、水密性の確保が難しくなってしまう。さらに、水密部材 2 5 1 の一部が外側にはみ出てしまったりする等の問題があった。

40

## 【 0 1 8 3 】

このような問題に鑑み、図 2 3 に示すように、水密部材 2 5 1 の一部に係止突起 2 5 1 t が設けられ、図 2 4 に示すように、金リング 2 5 0 に係止突起 2 5 1 t が係止される係止溝 2 5 0 m が形成されていても構わない。

## 【 0 1 8 4 】

このような構成によれば、係止溝 2 5 0 m に対する係止突起 2 5 1 t の係止により、水密部材 2 5 1 の回転方向のずれが防止される。このことから、水密部材 2 5 1 の水密性を十分確保できる他、水密部材 2 5 1 のはみ出しを防止することができる。

## 【 0 1 8 5 】

尚、金リング 2 5 0 に係止突起が設けられ、水密部材 2 5 1 に係止溝が設けられる構成

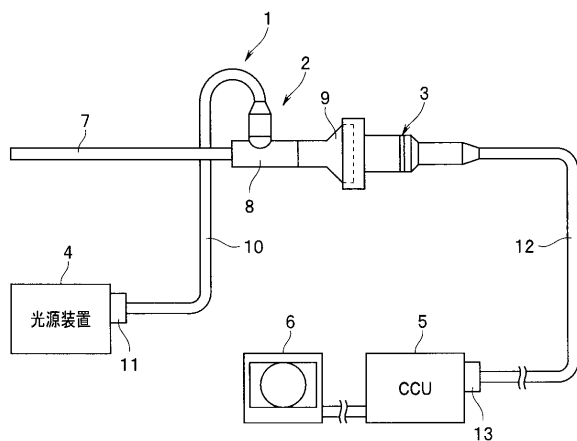
50

【 0 1 8 6 】

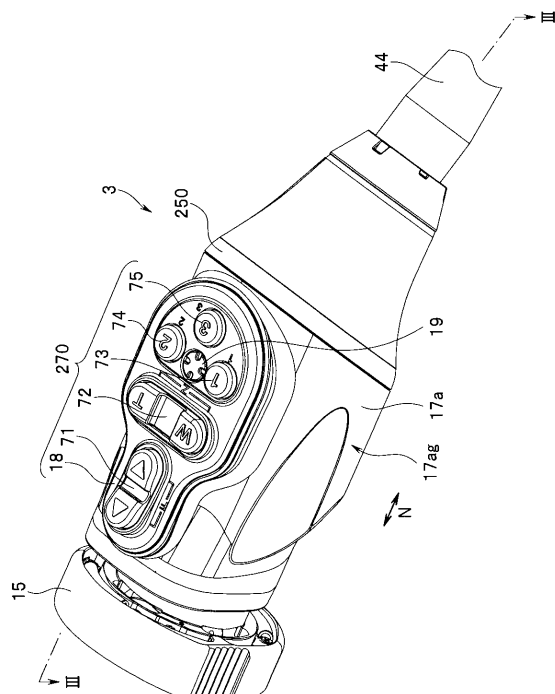
【 0 1 8 7 】

本出願は、２０１６年２月３日に日本国に出願された特願２０１６－０１８１１８号を優先権主張の基礎として出願するものであり、上記の内容は、本願明細書、請求の範囲、図面に引用されたものである。

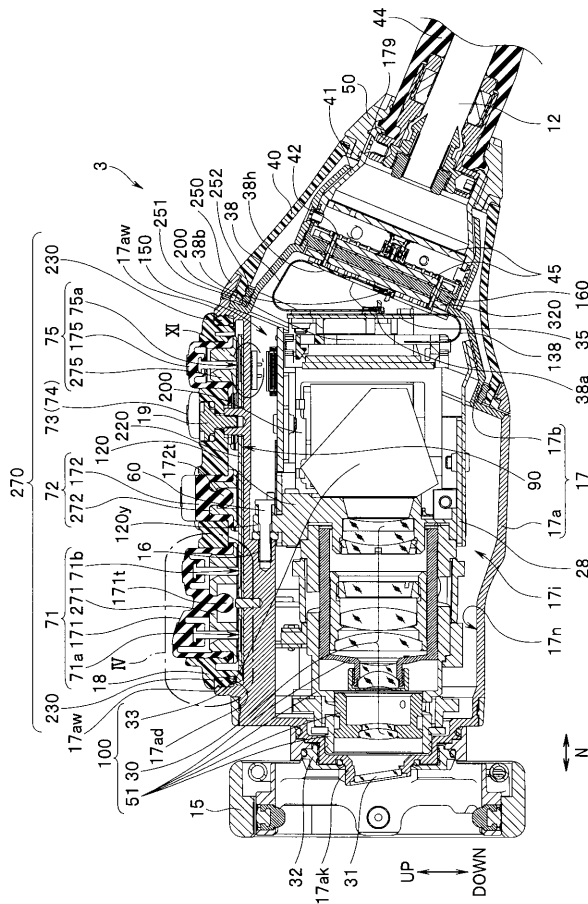
【 图 1 】



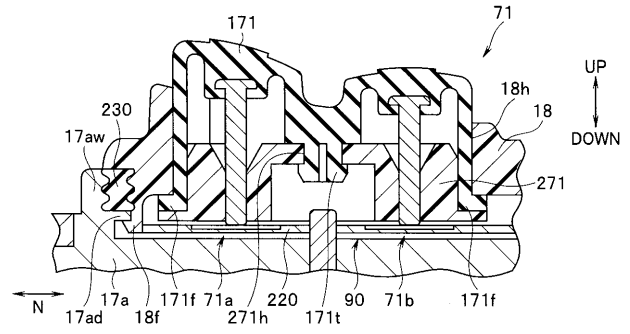
【图 2】



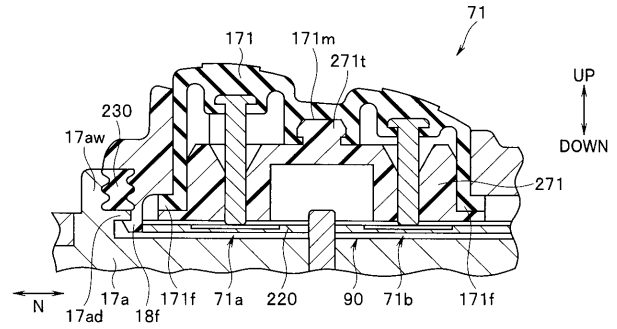
【 図 3 】



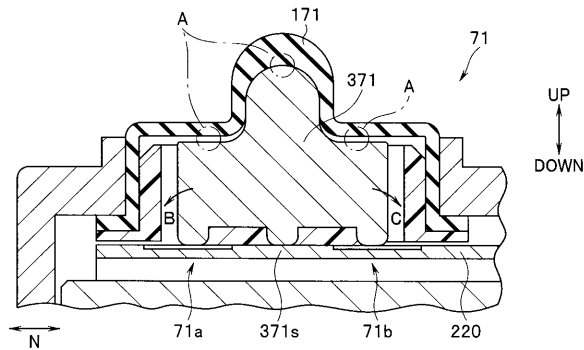
【 図 4 】



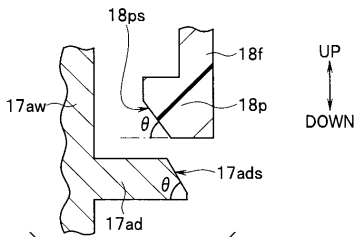
【 図 5 】



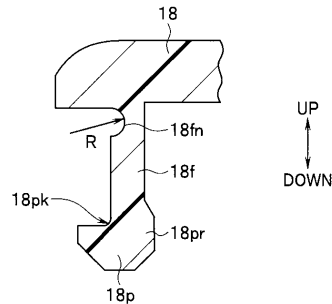
【 図 6 】



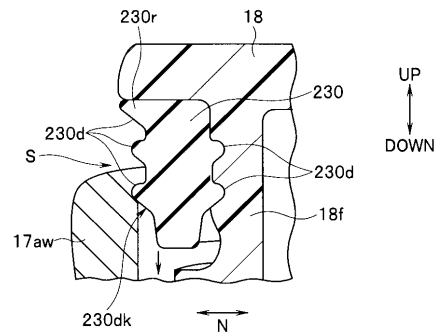
【圖 7】



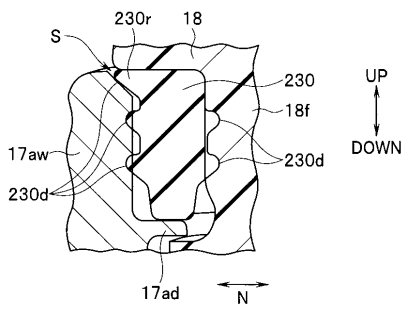
【圖 8】



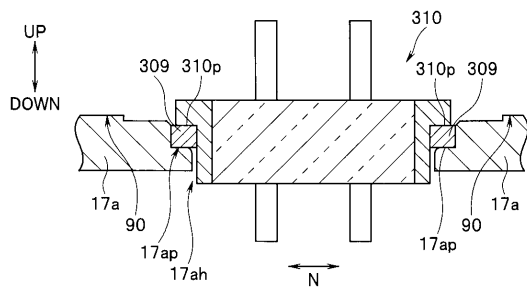
【 図 9 】



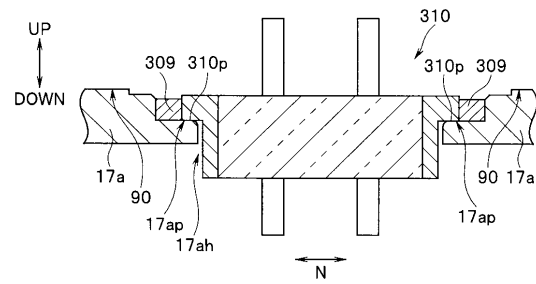
【図 10】



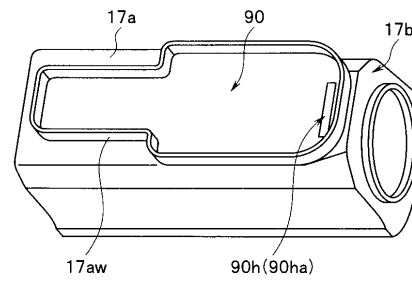
【図 11】



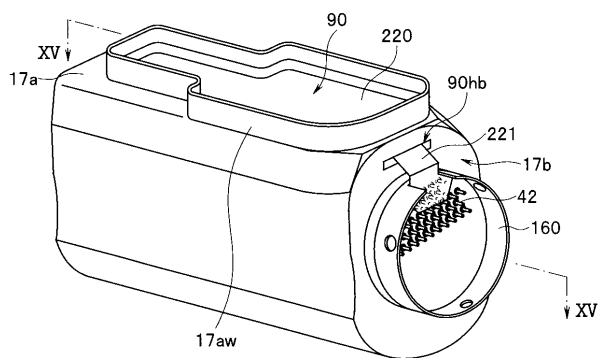
【図 12】



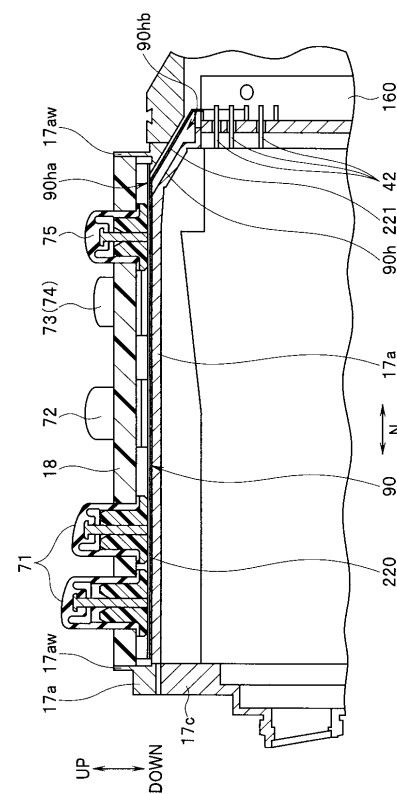
【図 13】



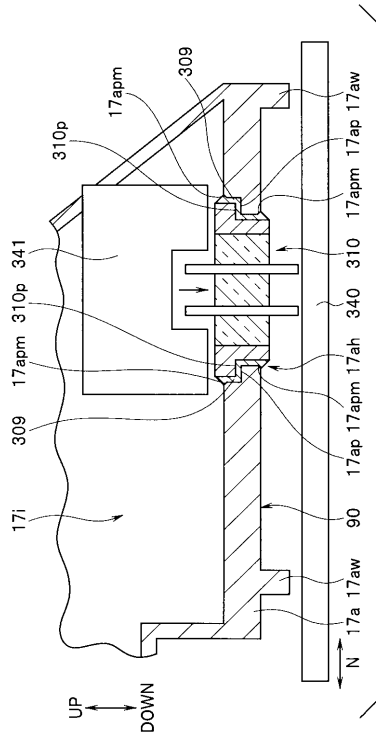
【図 14】



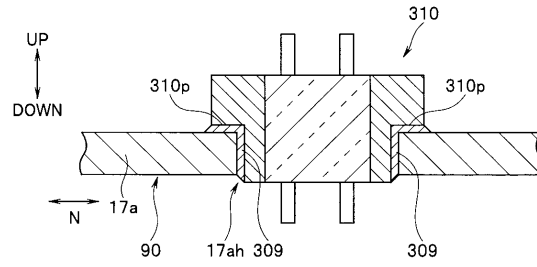
【図 15】



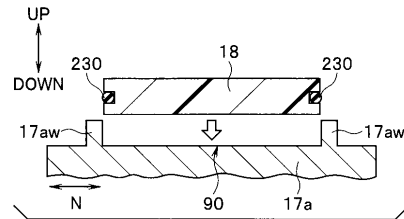
【図 16】



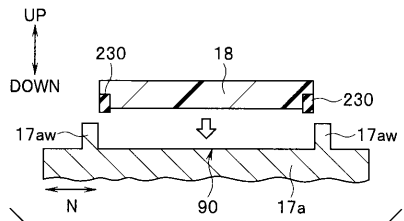
【図 17】



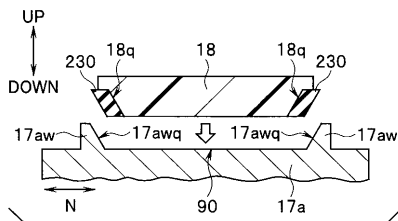
【図 18】



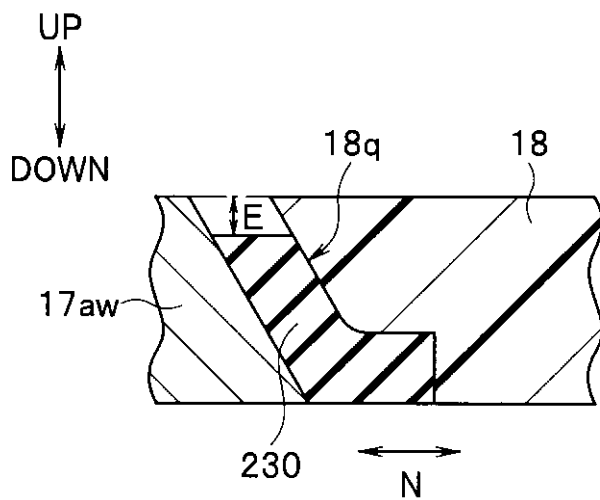
【図 19】



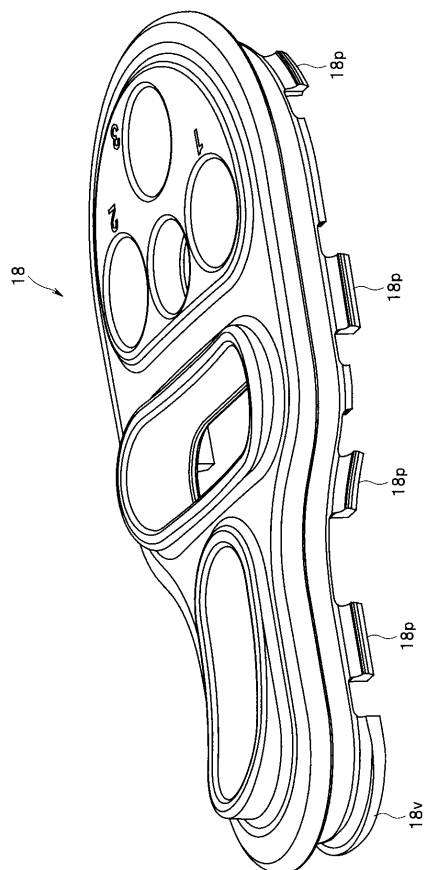
【図 20】



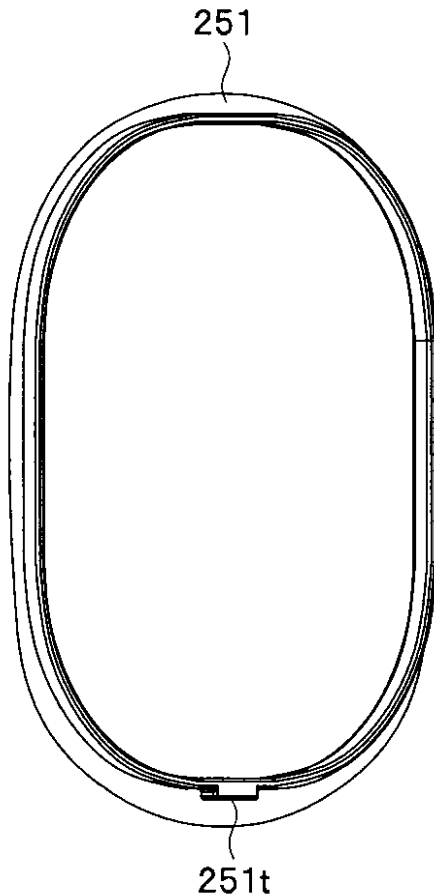
【図 21】



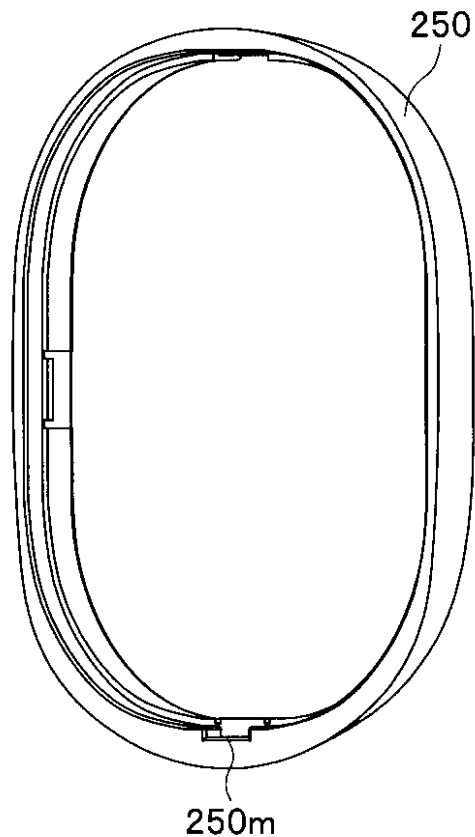
【図 22】



【図 2 3】



【図 2 4】



## 【手続補正書】

【提出日】平成29年6月8日(2017.6.8)

## 【手続補正 1】

【補正対象書類名】明細書

【補正対象項目名】0020

【補正方法】変更

【補正の内容】

【0020】

本発明の一態様におけるスイッチユニットは、外装部材の外表面に設けられた1つの開口部においてそれぞれ離間して設けられた複数のスイッチと、前記複数のスイッチを覆うとともに、前記1つの開口部に水密的に固定される柔軟な1つのスイッチカバーと、前記複数のスイッチの間に位置するように設けられたスイッチ固定部材と、前記複数のスイッチの間に位置するように前記スイッチカバーに形成された、前記スイッチ固定部材に係止される係止部と、を具備する。

## 【手続補正 2】

【補正対象書類名】特許請求の範囲

【補正対象項目名】全文

【補正方法】変更

【補正の内容】

【特許請求の範囲】

【請求項 1】

外装部材の外表面に設けられた1つの開口部においてそれぞれ離間して設けられた複数のスイッチと、

前記複数のスイッチを覆うとともに、前記1つの開口部に水密的に固定される柔軟な1つのスイッチカバーと、

前記複数のスイッチの間に位置するように設けられたスイッチ固定部材と、  
前記複数のスイッチの間に位置するように前記スイッチカバーに形成された、前記スイッチ固定部材に係止される係止部と、  
を具備することを特徴とするスイッチユニット。

【請求項 2】

前記係止部は、前記スイッチカバーに設けられた、前記スイッチ固定部材に向けて突設されるとともに前記スイッチ固定部材に係止される凸状の爪部であることを特徴とする請求項 1 に記載のスイッチユニット。

【請求項 3】

前記係止部は、前記スイッチ固定部材に設けられた、前記スイッチカバーに向けて突設されるとともに前記スイッチカバーに係止される凸状の爪部であることを特徴とする請求項 1 に記載のスイッチユニット。

【請求項 4】

前記スイッチカバーは、一部が枠体に覆われており、  
前記枠体における前記スイッチカバーの被覆部は、前記開口部に対して水密部材を介して水密的に固定されていることを特徴とする請求項 1 に記載のスイッチユニット。

【請求項 5】

前記外装部材は、1 層の金属から構成されていることを特徴とする請求項 1 に記載のスイッチユニット。

【請求項 6】

請求項 1 に記載のスイッチユニットを備えることを特徴とする内視鏡用撮像装置。

【請求項 7】

請求項 1 に記載のスイッチユニットを備えることを特徴とする内視鏡。

【手続補正書】

【提出日】平成29年9月1日(2017.9.1)

【手続補正 1】

【補正対象書類名】明細書

【補正対象項目名】0 0 2 0

【補正方法】変更

【補正の内容】

【0 0 2 0】

本発明の一態様におけるスイッチユニットは、外装部材の外表面に設けられた 1 つの開口部においてそれぞれ離間して設けられた複数のスイッチと、前記複数のスイッチの間に位置するように設けられたスイッチ固定部材と、前記 1 つの開口部に取り付けられる、前記複数のスイッチを囲むように形成された孔を有する枠体と、前記孔に水密的に固定される柔軟なスイッチカバーと、前記複数のスイッチの間に位置するように前記スイッチカバーに形成された、前記スイッチ固定部材に係止される係止部と、を具備する。

【手続補正 2】

【補正対象書類名】特許請求の範囲

【補正対象項目名】全文

【補正方法】変更

【補正の内容】

【特許請求の範囲】

【請求項 1】

外装部材の外表面に設けられた 1 つの開口部においてそれぞれ離間して設けられた複数のスイッチと、

前記複数のスイッチの間に位置するように設けられたスイッチ固定部材と、

前記 1 つの開口部に取り付けられる、前記複数のスイッチを囲むように形成された孔を有する枠体と、

前記孔に水密的に固定される柔軟なスイッチカバーと、

前記複数のスイッチの間に位置するように前記スイッチカバーに形成された、前記スイッチ固定部材に係止される係止部と、

を具備することを特徴とするスイッチユニット。

【請求項 2】

前記係止部は、前記スイッチカバーに設けられた、前記スイッチ固定部材に向けて突設されるとともに前記スイッチ固定部材に係止される凸状の爪部であることを特徴とする請求項 1 に記載のスイッチユニット。

【請求項 3】

前記係止部は、前記スイッチ固定部材に設けられた、前記スイッチカバーに向けて突設されるとともに前記スイッチカバーに係止される凸状の爪部であることを特徴とする請求項 1 に記載のスイッチユニット。

【請求項 4】

前記スイッチカバーは、一部が前記枠体に覆われており、

前記枠体における前記スイッチカバーの被覆部は、前記開口部に対して水密部材を介して水密的に固定されていることを特徴とする請求項 1 に記載のスイッチユニット。

【請求項 5】

前記外装部材は、1 層の金属から構成されていることを特徴とする請求項 1 に記載のスイッチユニット。

【請求項 6】

前記孔は、前記枠体に対して複数形成されているとともに、前記スイッチカバーは、複数から構成されており、

各前記スイッチカバーは、各前記孔に対してそれぞれ固定されていることを特徴とする請求項 1 に記載のスイッチユニット。

【請求項 7】

請求項 1 に記載のスイッチユニットを備えることを特徴とする内視鏡用撮像装置。

【請求項 8】

請求項 1 に記載のスイッチユニットを備えることを特徴とする内視鏡。

## 【 国際調査報告 】

## INTERNATIONAL SEARCH REPORT

International application No.

PCT/JP2016/082324

## A. CLASSIFICATION OF SUBJECT MATTER

A61B1/00(2006.01)i, G02B23/24(2006.01)i

According to International Patent Classification (IPC) or to both national classification and IPC

## B. FIELDS SEARCHED

Minimum documentation searched (classification system followed by classification symbols)

A61B1/00, G02B23/24

Documentation searched other than minimum documentation to the extent that such documents are included in the fields searched

|                           |           |                            |           |
|---------------------------|-----------|----------------------------|-----------|
| Jitsuyo Shinan Koho       | 1922-1996 | Jitsuyo Shinan Toroku Koho | 1996-2016 |
| Kokai Jitsuyo Shinan Koho | 1971-2016 | Toroku Jitsuyo Shinan Koho | 1994-2016 |

Electronic data base consulted during the international search (name of data base and, where practicable, search terms used)

## C. DOCUMENTS CONSIDERED TO BE RELEVANT

| Category* | Citation of document, with indication, where appropriate, of the relevant passages                                                                                                                                  | Relevant to claim No. |
|-----------|---------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|-----------------------|
| X<br>Y    | JP 2013-56003 A (Olympus Medical Systems Corp.),<br>28 March 2013 (28.03.2013),<br>paragraphs [0008], [0027] to [0039], [0058] to [0068]; fig. 2<br>(Family: none)                                                  | 1, 4-7<br>2-3         |
| Y         | JP 2004-337188 A (Olympus Corp.),<br>02 December 2004 (02.12.2004),<br>paragraphs [0043] to [0059], [0131] to [0147];<br>fig. 7<br>& US 2006/0100485 A1<br>paragraphs [0046] to [0071], [0143] to [0159];<br>fig. 7 | 2-3                   |

☒ Further documents are listed in the continuation of Box C.☐ See patent family annex.

\* Special categories of cited documents:

"A" document defining the general state of the art which is not considered to be of particular relevance

"E" earlier application or patent but published on or after the international filing date

"L" document which may throw doubts on priority claim(s) or which is cited to establish the publication date of another citation or other special reason (as specified)

"O" document referring to an oral disclosure, use, exhibition or other means

"P" document published prior to the international filing date but later than the priority date claimed

"T" later document published after the international filing date or priority date and not in conflict with the application but cited to understand the principle or theory underlying the invention

"X" document of particular relevance; the claimed invention cannot be considered novel or cannot be considered to involve an inventive step when the document is taken alone

"Y" document of particular relevance; the claimed invention cannot be considered to involve an inventive step when the document is combined with one or more other such documents, such combination being obvious to a person skilled in the art

"&amp;" document member of the same patent family

Date of the actual completion of the international search  
16 December 2016 (16.12.16)Date of mailing of the international search report  
27 December 2016 (27.12.16)Name and mailing address of the ISA/  
Japan Patent Office  
3-4-3, Kasumigaseki, Chiyoda-ku,  
Tokyo 100-8915, Japan

Authorized officer

Telephone No.

**INTERNATIONAL SEARCH REPORT**

International application No.

PCT/JP2016/082324

**C (Continuation). DOCUMENTS CONSIDERED TO BE RELEVANT**

| Category* | Citation of document, with indication, where appropriate, of the relevant passages                                                         | Relevant to claim No. |
|-----------|--------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|-----------------------|
| A         | JP 8-112243 A (Olympus Optical Co., Ltd.),<br>07 May 1996 (07.05.1996),<br>paragraphs [0012] to [0018], [0034] to [0039]<br>(Family: none) | 1-7                   |
| A         | JP 2002-170453 A (Asahi Optical Co., Ltd.),<br>14 June 2002 (14.06.2002),<br>paragraphs [0015] to [0028]; fig. 3<br>(Family: none)         | 1-7                   |
| A         | JP 2004-267342 A (Olympus Corp.),<br>30 September 2004 (30.09.2004),<br>paragraphs [0042] to [0055]; fig. 5, 6<br>(Family: none)           | 1-7                   |

|                                                                                                                                                                                                                         |                                                                                                                                           |                                                          |  |
|-------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|-------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|----------------------------------------------------------|--|
| 国際調査報告                                                                                                                                                                                                                  |                                                                                                                                           | 国際出願番号 PCT/J P 2 0 1 6 / 0 8 2 3 2 4                     |  |
| <b>A. 発明の属する分野の分類 (国際特許分類 (IPC))</b><br>Int.Cl. A61B1/00(2006.01)i, G02B23/24(2006.01)i                                                                                                                                 |                                                                                                                                           |                                                          |  |
| <b>B. 調査を行った分野</b><br>調査を行った最小限資料 (国際特許分類 (IPC))<br>Int.Cl. A61B1/00, G02B23/24                                                                                                                                         |                                                                                                                                           |                                                          |  |
| 最小限資料以外の資料で調査を行った分野に含まれるもの<br>日本国実用新案公報 1922-1996年<br>日本国公開実用新案公報 1971-2016年<br>日本国実用新案登録公報 1996-2016年<br>日本国登録実用新案公報 1994-2016年                                                                                        |                                                                                                                                           |                                                          |  |
| 国際調査で使用した電子データベース (データベースの名称、調査に使用した用語)                                                                                                                                                                                 |                                                                                                                                           |                                                          |  |
| <b>C. 関連すると認められる文献</b>                                                                                                                                                                                                  |                                                                                                                                           |                                                          |  |
| 引用文献の<br>カテゴリー*                                                                                                                                                                                                         | 引用文献名 及び一部の箇所が関連するときは、その関連する箇所の表示                                                                                                         | 関連する<br>請求項の番号                                           |  |
| X<br>Y                                                                                                                                                                                                                  | JP 2013-56003 A (オリンパスメディカルシステムズ株式会社)<br>2013.03.28, 段落 [0008], [0027]-[0039], [0058]-[0068], 図2<br>(ファミリーなし)                             | 1, 4-7<br>2-3                                            |  |
| Y                                                                                                                                                                                                                       | JP 2004-337188 A (オリンパス株式会社)<br>2004.12.02, 段落 [0043]-[0059], [0131]-[0147], 図7<br>& US 2006/0100485 A1, [0046]-[0071], [0143]-[0159], 図7 | 2-3                                                      |  |
| <input checked="" type="checkbox"/> C欄の続きにも文献が列挙されている。 <input type="checkbox"/> パテントファミリーに関する別紙を参照。                                                                                                                     |                                                                                                                                           |                                                          |  |
| * 引用文献のカテゴリー<br>「A」 特に関連のある文献ではなく、一般的技術水準を示すもの<br>「E」 国際出願日前の出願または特許であるが、国際出願日以後に公表されたもの<br>「L」 優先権主張に疑義を提起する文献又は他の文献の発行日若しくは他の特別な理由を確立するために引用する文献 (理由を付す)<br>「O」 口頭による開示、使用、展示等に言及する文献<br>「P」 国際出願日前で、かつ優先権の主張の基礎となる出願 |                                                                                                                                           |                                                          |  |
| 国際調査を完了した日<br>16.12.2016                                                                                                                                                                                                |                                                                                                                                           | 国際調査報告の発送日<br>27.12.2016                                 |  |
| 国際調査機関の名称及びあて先<br>日本国特許庁 (ISA/J P)<br>郵便番号100-8915<br>東京都千代田区霞が関三丁目4番3号                                                                                                                                                 |                                                                                                                                           | 特許庁審査官 (権限のある職員)<br>右▲高▼ 孝幸<br>電話番号 03-3581-1101 内線 3292 |  |

| 国際調査報告                |                                                                                           | 国際出願番号 PCT/J P 2 0 1 6 / 0 8 2 3 2 4 |
|-----------------------|-------------------------------------------------------------------------------------------|--------------------------------------|
| C (続き) . 関連すると認められる文献 |                                                                                           |                                      |
| 引用文献の<br>カテゴリー*       | 引用文献名 及び一部の箇所が関連するときは、その関連する箇所の表示                                                         | 関連する<br>請求項の番号                       |
| A                     | JP 8-112243 A (オリンパス光学工業株式会社)<br>1996.05.07, 段落 [0012]-[0018], [0034]-[0039]<br>(ファミリーなし) | 1-7                                  |
| A                     | JP 2002-170453 A (旭光学工業株式会社)<br>2002.06.14, 段落 [0015]-[0028], 図 3<br>(ファミリーなし)            | 1-7                                  |
| A                     | JP 2004-267342 A (オリンパス株式会社)<br>2004.09.30, 段落 [0042]-[0055], 図 5, 6<br>(ファミリーなし)         | 1-7                                  |

---

フロントページの続き

(81)指定国 AP(BW, GH, GM, KE, LR, LS, MW, MZ, NA, RW, SD, SL, ST, SZ, TZ, UG, ZM, ZW), EA(AM, AZ, BY, KG, KZ, RU, TJ, TM), EP(AL, AT, BE, BG, CH, CY, CZ, DE, DK, EE, ES, FI, FR, GB, GR, HR, HU, IE, IS, IT, LT, LU, LV, MC, MK, MT, NL, NO, PL, PT, RO, RS, SE, SI, SK, SM, TR), OA(BF, BJ, CF, CG, CI, CM, GA, GN, GQ, GW, KM, ML, MR, NE, SN, TD, TG), AE, AG, AL, AM, AO, AT, AU, AZ, BA, BB, BG, BH, BN, BR, BW, BY, BZ, CA, CH, CL, CN, CO, CR, CU, CZ, DE, DJ, DK, DM, DO, DZ, EC, EE, EG, ES, FI, GB, GD, GE, GH, GM, GT, HN, HR, HU, ID, IL, IN, IR, IS, JP, KE, KG, KN, KP, KR, KW, KZ, LA, LC, LK, LR, LS, LU, LY, MA, MD, ME, MG, MK, MN, MW, MX, MY, MZ, NA, NG, NI, NO, NZ, OM, PA, PE, PG, PH, PL, PT, QA, RO, RS, RU, RW, SA, SC, SD, SE, SG, SK, SL, SM, ST, SV, SY, TH, TJ, TM, TN, TR, TT, TZ, UA

(注) この公表は、国際事務局(WIPO)により国際公開された公報を基に作成したものである。なおこの公表に係る日本語特許出願(日本語実用新案登録出願)の国際公開の効果は、特許法第184条の10第1項(実用新案法第48条の13第2項)により生ずるものであり、本掲載とは関係ありません。

|                |                                                                                                                                                        |         |            |
|----------------|--------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|---------|------------|
| 专利名称(译)        | 开关单元，内窥镜成像装置包括开关单元，内窥镜配备开关单元                                                                                                                           |         |            |
| 公开(公告)号        | <a href="#">JPWO2017134883A1</a>                                                                                                                       | 公开(公告)日 | 2018-02-08 |
| 申请号            | JP2017530778                                                                                                                                           | 申请日     | 2016-10-31 |
| [标]申请(专利权)人(译) | 奥林巴斯株式会社                                                                                                                                               |         |            |
| 申请(专利权)人(译)    | 奥林巴斯公司                                                                                                                                                 |         |            |
| [标]发明人         | 棚橋史典                                                                                                                                                   |         |            |
| 发明人            | 棚橋 史典                                                                                                                                                  |         |            |
| IPC分类号         | A61B1/04 A61B1/00 G02B23/24                                                                                                                            |         |            |
| CPC分类号         | A61B1/00039 A61B1/00066 A61B1/00105 A61B1/00121 A61B1/00163 A61B1/00195 A61B1/042 G02B23/2453 G02B23/2484 A61B1/00009 A61B1/00096 A61B1/05 G02B23/2492 |         |            |
| FI分类号          | A61B1/04.540 A61B1/00.716 G02B23/24.A                                                                                                                  |         |            |
| F-TERM分类号      | 2H040/BA24 2H040/DA21 4C161/CC06 4C161/FF02 4C161/JJ13 4C161/LL01                                                                                      |         |            |
| 代理人(译)         | 伊藤 进<br>长谷川 靖<br>ShinoUra修                                                                                                                             |         |            |
| 优先权            | 2016018118 2016-02-02 JP                                                                                                                               |         |            |
| 外部链接           | <a href="#">Espacenet</a>                                                                                                                              |         |            |

#### 摘要(译)

多个开关71a和71b在设置在外部构件的外表面上的开口部分90中彼此分开地设置，多个开关71a和71b设置在开口部分90中，固定构件271，多个开关71a，71b覆盖了b与开关固定构件271，其被水密固定到开口90的柔性一个开关盖171时，开关71A，71B之间形成的，开关盖171的锁定到开关固定构件271第171条t。

